立会川駅前通り繁栄会／東京都品川区

１．取り組みの概要について

立会川駅前通り繁栄会では、6 年ほど前の平成 16 年に坂本龍馬の歴史研究家から、坂本龍馬が若き日に、土佐藩の下屋敷のある立会川のそばの砲台要員として所属していたという云われがあること聞き、坂本龍馬をまちおこし活かそうという動きが始まった。

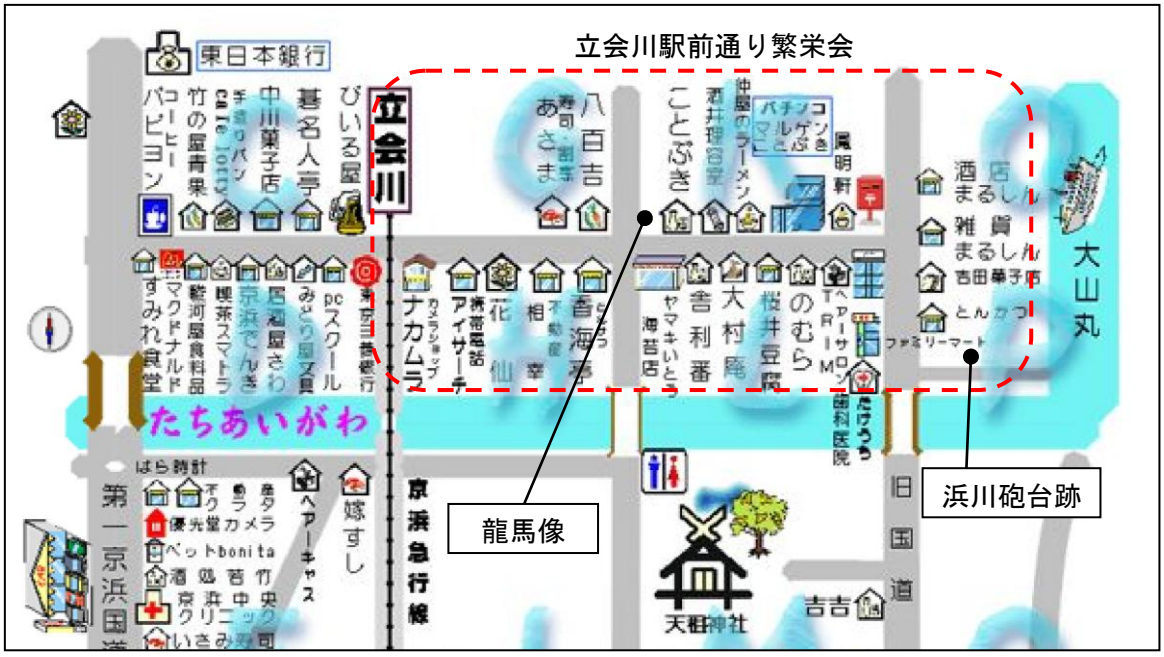
地元では商店街等が品川龍馬会を発足、高知市と交流を図り、龍馬像を贈呈されたほか、商店街の飲食店では「龍馬ラーメン」「砲台そば」をはじめ、龍馬にちなんだ商品の開発も進んでいる。

平成 22 年に NHK の大河ドラマ「龍馬伝」でも品川砲台でのエピソードは取り上げられたことにより、一躍マスコミ等にも取り上げられるようになった。

２．商店街概要

商店街名	立会川駅前通り繁栄会
所在地	東京都品川区東大井２丁目
会員数	３７店舗（内、企業・医院が４店舗）
ＵＲＬ	―

【立会川駅前通り繁栄会の位置】



参考：品川ポータルサイト

３．取り組みに至る経緯・背景

（１）幕末史の研究家との出会い、砲台跡の発見

立会川駅前通り繁栄会の商店街起しは、平成 14 年に始まり、隣接する鮫洲商店街と一緒に地元町会等に呼びかけ、勝島運河の土手の花畑づくり（しながわ花街道）を行った。この事業は、募金活動や品川区の助成金を受け、運河土手に区民花壇を整備し、残された自然資源や生かす取り組みとして、地元でその管理が継続している。

花畑づくり事業を継続していた平成 16 年に、その場所の管理をしていた商店街の店主が、運河沿いで調べごとをしている男性に会い、声をかけたところ、幕末史の研究家で、この土地に坂本龍馬がいたということを教えられた。

偶然は重なり、その翌月に、立会川河口そばの宅地造成現場に、大きな石がいくつも出ていることに気付き、後に土佐藩の造った砲台の礎石との説に至った。

これらの経緯から、商店街内で坂本龍馬に由縁がある可能性があるので、商店街のまちづくりに活かしてみないかという話が持ち上がり、賛同する方々が中心となって坂本龍馬にちなんだ取り組みを始めることとなった。

【しながわ花街道の場所/読売新聞（平成 22 年 3 月 4 日）記事より抜粋】

【発見された土佐藩砲台礎石が置かれている、浜川砲台跡】

（２）品川龍馬会の発足

立会川駅前通り繁栄会での坂本龍馬にちなんだ取り組みは、当初、小さな取り組みであったが、NHK 大河ドラマの放映が決まり、坂本龍馬が立会川に由縁があったということが広まり、地元でも盛り上がりの気運が出てきた。平成 21 年 10 月には、品川区全体でも盛り上げていこうという動きから、「品川龍馬会」が発足した。

４．取り組み内容

立会川駅前通り繁栄会では、京浜急行線立会川駅の改札を出ると石畳の通り海へと伸びる、商店街内の坂本龍馬像を拝み、龍馬ラーメンや砲台そばのノボリ旗をみながら、浜川砲台跡、地元で整備した勝島運河沿いの花畑、しながわ花海道へと、地域の歴史資源、人的資源、自然資源を生かして、掘り起こすことで、まちの活性化につなげようと取り組んでいる。

（１）“東海道”薫る街並みの整備

立会川駅前通り繁栄会をはじめ、江戸時代の街並みを色濃く残す旧東海道沿いの 8 商店街で、東京都の地域連携型モデル商店街事業として「東海道周辺まちなみ整備事業」が行われ、平成 19 年に整備が完了した。

立会川駅前通り繁栄会沿いでの街路整備は、街路全面にわたり御影石で覆った石畳が整備された。京浜急行立会川駅から旧東海道につながる約 100ｍの区間にあたる当商店会では、街路整備とともに、2 店舗がファサード整備として、江戸風の暖簾や看板、庇などの整備を行った。

【石畳に整備された商店会の街路】

（２）坂本龍馬像の贈呈

平成 16 年 2 月に、商店街の店主が幕末史の研究家と偶然出会い、立会川地区には土佐藩の下屋敷があり、20 歳の坂本龍馬が砲台要員として所属していたとのエピソード聞き、同年 6 月に、坂本龍馬に興味がある仲間と共に、高知市長へ表敬訪問し、高知市の坂本龍馬関係者と交流を持つようになった。

それをきっかけに、同年 11 月に高知市から坂本龍馬の像を贈呈された。当初は立会川駅前に設置されたが、駅のリニューアルのために、商店街の北浜川児童遊園に移設された。

高知市からの坂本龍馬像の贈呈に対して、浜崎砲台跡から出てきた礎石を高知市に贈呈している。

【北浜川児童遊園に設置された坂本龍馬像】

（３）地元飲食店による龍馬にちなんだ商品開発と品川縣ビールの開発

立会川地区には土佐藩の下屋敷が位置し、20 歳の坂本龍馬が砲台要員として所属していたエピソードが残るが、高知市から坂本龍馬像が寄贈されたことにより、地元飲食店では「龍馬カレー」や「砲台そば」など、龍馬にちなんだユニークな商品開発が進むようになった。

さらに明治初期に、高知藩下屋敷跡地には新たな品川県（当時）の県営麦酒製造所が建設された歴史がある。そのような歴史を生かそうと「日本初の幻のビール工場！」と銘打って、平成 17 年には品川区商店街連合会挙げてのプロジェクトとして、「品川縣ビール」復活事業が立ち上がった。このビールは、立会川駅前通り繁栄会と桜新道共栄会が共同で開発した。

この事業は東京都の若手商人研究会のプロジェクトとしてもノミ

【品川縣ビール】

ネートされ、平成 17 年度の発表会では東京都産業労働局長賞を受賞した。また、全国地ビールコンテストでも 3 位に入賞し、区内外でも話題を集め、地元飲食店や酒販店、即売会などで反響を得た。

（４）観光対応へのイベントや関連グッズの開発

平成 22 年に NHK の大河ドラマ「龍馬伝」の放映により、全国で坂本龍馬がブームになり、坂本龍馬像のある立会川駅前通り繁栄会へも全国から人が足を運ぶようになった。

こうした集客効果を店の売上につなげようと、商店街の各店では工夫を凝らしたメニューや商品・サービスも開発・提供している。

「龍馬カレー」や「砲台そば」に続き、龍馬の好物だったという軍鶏を使用した「龍馬ラーメン」、カツオの入った「龍馬餃子」、「龍馬の足跡パン」、「龍馬品川ヲ行ク」T シャツなど、龍馬をまち全体のテーマに掲げたことにより、立会川駅周辺の商店街の商店主が店を見直すきっかけとなった。

立会川駅前通り繁栄会でも飲食店等が商品開発をしたり、「春の龍馬さん祭」などの新たなイベントを企画を進めている。

【特大海老を砲台に見立てた砲台そば】

【龍馬ラーメン】

５．取り組みによる成果

（１）商店街全体で龍馬をテーマにした取り組みが定着

当初は商店街の一部の商店主で始まった取り組みであったが、坂本龍馬像の設置や大河ドラマでの取り上げなど、坂本龍馬が品川にゆかりのあったことが認知されることにより、他の商店主も自信を持ってＰＲできるようになった。

その結果、龍馬をテーマに商品開発を進める店が増えたこと、週末に急増した観光客等に対応して、土日に新たに営業を拡大した店など、店に覇気が出てきた。

（２）地元の子どもたちへも坂本龍馬を伝える動き

大河ドラマやテレビ番組等、マスコミで取り上げられることにより、龍馬ファン等の訪れることから、地域ぐるみのイベント等も企画されるようになった。

地元の小中学生にも坂本龍馬が、この町にゆかりがあったことを伝える取り組み（小学生を対象とした商店街における紙芝居など）が展開されている。

６．取り組みにおける課題

（１）来訪者にあったサービスの提供

立会川駅前通り繁栄会は飲食店の割合が高く、龍馬関連の商品の多くは飲食メニューにあたる。坂本龍馬像を見に来る観光客も増えていることから、お土産品も提供することが必要であると考えている。区外から、お土産品の販売タイアップの話もいくつかあり、今後は商店街に訪れる客層にも対応したサービス提供を検討する必要があると考えている。

（２）大河ドラマ終了後の対応

現在、NHK の大河ドラマ「龍馬伝」が放映されているこいとから、ブームとして商店街に訪れる方々多いが、ドラマ終了後の対応をどうするかが課題としてある。

品川龍馬会や観光協会とのタイアップによる取り組みなど、地元の関係者と連携して、これまでの取り組みを広げることが大切であると考えている。

７．連携した団体、キーパーソンについて

坂本龍馬のまちづくりを取り組み始めた中心として、前商店会長Ｎ氏があげられる。現在は、商店会長を引き継いだＪ氏が中心となり、商店街の取り組みを展開している。

平成 20 年に品川区商店街連合会会長のＵ氏を会長、Ｎ氏を副会長に「品川龍馬会」が発足し、品川区全体で坂本龍馬のまち起こしを応援する強い味方となっている。